

一般質問…ここが論点

6月定例会

6月定例会中、10日、13日、14日の3日間で、市政全般について15人の議員が一般質問を行いました。その中から主なものを要約して掲載します。詳しい内容をお知りになりたい方は、6月定例会会議録（9月上旬発行予定）を市立図書館などでご覧いただくか、市議会ホームページの会議録検索システム（9月上旬掲載予定）をご覧ください。

大竹利信（公明党）

災害時要援護者（災害弱者）対策について

問 被災弱者といわれる被災障害者と高齢者の緊急保護対策の実施と視覚障害者用の防災マニュアルを作成する考えはないか。

答 支援を必要とする方を把握するための登録制度を検討している。地域の安全は地域で守る機運を高めたい。視覚障害者用の点字または声のガイドブックは作成していきたい。



登下校時の安全確保を

問 小中学生の登下校時での安全対策とパトロールボランティアの推進について伺う。また、青パト活用に対する助成をする考えがあるか。

答 不審者の増加と凶悪化が進む中で、これまで以上に関係機関の連絡を密にして地域ぐるみで対処したい。青パトの助成は行う。

伊藤勝美（公明党）

内部障害者に理解を

問 心臓、呼吸器、肝臓等の内臓機能に障害を持つ内部障害者の理解を広げるため、「ハート・プラス」マークを市の窓口に掲示してどうか。

答 外見上わからない内部障害者は、市内に689人登録されているが、内部障害者の苦悩を理解してもらうため、市の福祉関係の窓口に「ハート・プラ



～「ハート・プラス」マーク～
内部障害者への理解を深めるため、「ハート・プラスの会」が提唱するマーク。

ス」マークを掲示し、広報等でも周知したい。

KYT（危険予知トレーニング）の実施について

問 学校内でのケガ・事故防止のため、市内の小学校でKYTを実施できないか。

答 KYTは事故防止に有効な手段と認識している。安全指導の授業の中にKYTも取り入れて事故防止に努めたい。

日恵野佳代（日本共産党）

ひきこもり対策

問 ひきこもりの半数以上は高校卒業後に発生し

ており、年数は長い人で20年以上になる。ひきこもり専門の相談窓口と検討委員会を設置すべきではないか。

答 市の相談窓口は、保健センターが対応することになり、保健・福祉・児童・教育等の関係機関で検討委員会の設置について協議を進める。

「心の教室相談員」の配置を

問 スクールカウンセラーが配置されていない蒲中・西浦中・大塚中に、子どもの相談窓口を確保するため「心の教室相談員」を市の予算で配置すべきでないか。

答 「心の教室相談員」は、子どもたちの心の安定に大変役立つっており、相談員の配置は検討したい。

波多野 努（新政クラブ）

地域の伝統文化や文化財の紹介を

問 市内各地域の人たちによって守り継がれてき